

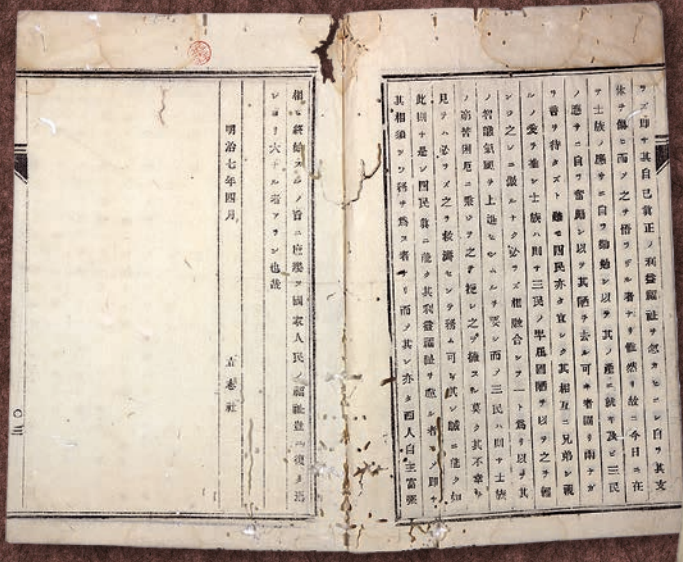
自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 96

2024 March

- 企画展「田村利親と土佐の柑橘～未完の大著『日本柑橘全誌』の世界～」
- 自由民権運動の幕開け—立志社創立150年を記念して—
- 自由民権150年記念行事
- 第24回社会科自由研究作品展報告
- めざまし博学連携! 活動レポート



立志社設立趣意書 後編
(個人蔵/高知市立自由民権記念館保管)

■リレーエッセイ

市長から市民の皆様へ

—自由民権記念館をよろしく—

この度、高知市長に就任いたしました桑名龍吾でございます。これから市民の皆様とともに新しいまちづくりに邁進していきたいと決意しています。

私は都市の品格やアイデンティティは、歴史に根差すものであると考えています。この歴史をしっかりと伝え、市民の学びと誇りの源泉とするためには、資料の保存が欠かせません。

そこで、高知市では自由民権記念館、オーテピア、春野郷土資料館などで資料を収集・保存・活用していくことで、その責任を果たしていく所存です。

さて、わが国の民主主義の源流といえる自由民権運動、これを先頭でリードした土佐の運動は、その重要性和と教訓においてまさに高知市の誇りとなるものです。

今年、明治七年に板垣退助らが「民権議院設立建白書」を発して議会の必要性を訴え、自由民権運動の出発点となつてから一五〇年です。ここから初期帝国議会までの二〇年ちかくが日本史を彩る自由民権運動の時代で「民権一五〇年」の時期となります。

この期間には、自由と権利の実現を求めて多くの土佐人の活躍と、史上重要なできごとがありました。

現在、世界中で自由と民主主義、平和と人権の価値が問い直されています。自由民権運動は歴史に学び未来を切り開くための、豊富な経験を残しています。

この「民権一五〇年」を機会に、自由民権記念館を中心に、資料の発掘調査研究をすすめて、新たな自由民権の歴史を発信していきたいと思ひます。

多くの市民県民、そして全国の関係者、研究者の皆様により一層のご支援をお願いいたします。

高知市長 桑名龍吾

企画展

田村利親と 土佐の柑橘

未完の大著『日本柑橘全誌』の世界

現在開催中の本企画展は、当館・特定非営利活動法人地域文化計画・伊予鉄総合企画株式会社の三者が主催者として開催しています。こちらのページでは、本展そして田村利親の魅力について、特定非営利活動法人地域文化計画の中村茂生理事よりご紹介します。

本展は、これまでひろく知られることのなかった田村利親の人生や業績について、貴重な資料を通して、その全貌をみることできる構成になっています。ぜひ展示室でご覧ください。



田村利親（現香美市土佐山田町出身）は、柑橘類の分類、栽培、販売の研究と実践に生涯をささげた人物です。またまとめた著作を残さなかつたために、今日ではほとんど知られていませんが、その仕事の量と質については、のこされた膨大な資料と自筆原稿からうかがうことができます。明治期の日本における柑橘類研究の第一人者といっても、決して言いすぎではないでしょう。難しい時代を生きぬく様もまた魅力的です。

この田村利親の人と業績について多くの人に知らせ、あわせて文旦を中心に高知県の柑橘類を紹介

する展示を企画できないかと考えていた時、高知市立自由民権記念館を会場にとり、この巡りあわせをうまくつかまえることができ、今回の企画展が実現することになりました。



展示風景



田村利親については、『高知県人名事典』を除けば、高知市民図書館の広報誌に掲載された短い文章がほとんど唯一の伝記です。今回の展示で関係資料をあらためて渉猟した現時点からみれば、この短文がいかに過不足なく伝記的情報をまとめ、田村利親の生涯と仕事のエッセンスを伝えているかがよくわかります。著者は、現在90歳半ばになられる橋本博好氏です。高知県の農業技術者として果樹の研究をされていた時代に田村の存在を知り、当時まだご健在であったご子息ともやりとりされ、田村のことを徹底的に調べられました。おそらく最初は同じ専門分野の研究者としてその業績に驚き、その後関心が徐々にその人物そのものになって広がっていったのだと思います。広範囲に集められた資料群を見ると、短くても密度の高い伝記が書けた理由が納得できます。

今回の企画展の準備期間は、とても短いものでした。それができたのは、橋本さんから直接お話をうかがえたことと、整理された資料群があったからです。浩瀚な評伝を書けるだけの資料も知見もお持ちでありながら、橋本さんはそれをご自分の仕事とはされなかつた。その理由を、そこまでの価値がほんとうにあるのか自信が持てなかつたからだとお話しされ

たことがあります。それを聞いて、自分一人でこつこつと資料を集めてこられる中で、共感してくれる仲間がなかなか現れなかつたのかもしれないと思いました。それでも橋本さんの熱意は冷めず、長い時間を要しはしましたが、いっしょになって田村利親を世に出そうといううねりになったのだと思います。

田村利親に「感染」した橋本さんと、橋本さんに「感染」したスタッフによる展覧会だといえるかもしれません。

展示史料の中心は、橋本さんの所蔵資料と「田村利親文庫」「田村利親関係資料」(高知県立図書館所蔵)から借用しています。そのほか、東京大学総合博物館からは、副題にある『日本柑橘全誌』の自筆原稿他資料群から、さまざまな種類の柑橘図をはじめたくさんの画像を提供していただきました。

展示史料はいずれもめつたに見られないものですが、この機会にぜひ見ていただきたいものをひとつだけあげてみます。

「有実而有名矣未有名而有実者也」。牧野結網こと牧野富太郎が大正2年に田村利親におくつた書です。訓読は「実有りて而して名有り未だ名有らずして実有る者也」。直訳すると、実質が出来上がって名前が立派となるものである。まだ

名はあがっていないが、実質はできあがっているという者もいる、ということになります。中国の古典には、実質ができてから有名になるべきで、実質を伴わない有名は絶対によくはないという共通認識があるのだそうです。

大正2年といえば、牧野は、植物分類学者としてもうずいぶん世に知られる存在でした。一方田村は高知県農事試験場を退職し、生家近くの果樹園で苗木販売などを手がけていましたが、柑橘類の膨大な研究蓄積に注目し評価する人はいなかったでしょう。実はこのあたり、青年時代に高知市の私塾で席を並べた旧知の間柄でしたが、この頃、お互い植物の世界に人生の大半を捧げた時点で再会を果たしてしまいました。おそらくこの当時、田村の仕事の価値、つまり実質をもっとも理解できたのが牧野だったと思います。

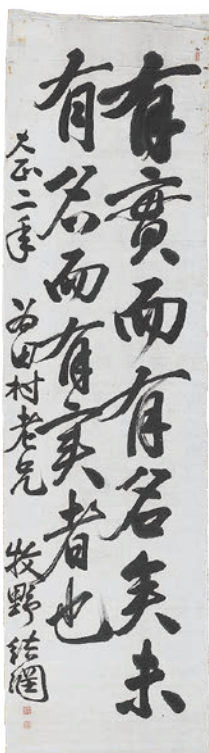
この書を解釈してくださった名古屋市博物館の島村桂子学芸員によれば、実質が伴っているのだから名があがっていないことを気にする必要はない、というところまで読むべきだということでした。田村に対する、牧野のエールだとわかります。

牧野は自分の雑誌に田村の文章を何度も掲載し、著書でもしばしば言及しています。柑橘研究の集大成『日本柑橘全誌』を出版しようと考えていた田村を、牧野が支援していたことは、牧野宛の書簡からうかがえます。それは実現しませんでした。それが実現しなかったのは、東京大学総合図書館にその原稿類がはいったのは牧野の仲介だったようです。

この展覧会が田村利親再評価のきっかけとなり、観た方がその人間的な魅力に「感染」することを期待しています。

特定非営利活動法人地域文化計画

理事 中村茂生



高知県立図書館蔵
(田村利親文庫)

自由民権運動の幕開け

— 立志社創立一五〇年を記念して —

一般に、自由民権運動の始まりは明治（一八七四）年一月、副島種臣、板垣退助、後藤象二郎等が政府左院に對して行った「民撰議院設立建白書」の提出にあるとされています。

また、同年四月には板垣や片岡健吉を中心に土佐で「立志社」が創設されました。この立志社は、その後土佐の自由民権運動を牽引していった重要な存在です。

令和六（二〇二四）年の本年は、このように自由民権運動が始まったとされる明治七年から数えて一五〇年目となります。この節目の年を記念して、今、再び自由民権運動を振り返ったり、学び直したり、また新たに触れてもらう機会となるよう、当館では今秋に立志社創立一五〇年を記念した企画展の開催を予定しています。

企画展の開催に先立って、本面では「民撰議院設立建白書」や「立志社」にまつわる時代背景や、その内容について簡単に御紹介します。



1 明治六年の政変



征韓論之図(当館蔵)

維新後、不安定化していた朝鮮との関係をめぐって明治政府内で対立が発生します。西郷隆盛を中心にした征韓論は、明治六（一八七三）年夏に欧米視察から帰国した岩倉使節団の面々の反対を受け、頓挫しました。論争に敗れた西郷、板垣、後藤、副

島、江藤新平は参議を辞職。世にいう「明治六年の政変」です。

2 民撰議院設立建白書

参議の職を辞した板垣、後藤等は翌年一月、イギリス留学から帰国した小室信夫、古沢滋等とともに愛国公党を結成、民撰議院設立建白書を左院に提出します。

古沢を中心に起草されたこの建白書は「上帝室に在らず、下人民に在らず、而も独り有司に帰す」と当時の政権が有司専制を行っていることを批判し、人々の教育を進め、権利を守るため、ひいては国を発展させるためには一刻も早く「民撰議院」をつくる必要があると訴えるものでした。

建白書は受理されませんでした。提出の翌日に全文が『日新真事誌』に掲載されたことからその内容は是非をめぐって一大論争が巻き起こりました。



民撰議院設立建白草稿
(国立国会図書館蔵)

3 立志社の創立



立志社跡の碑

建白書が不受理に終わった後、愛国公党の参加者たちは各々帰郷します。高知では帰高した板垣を中心に、立志社が創立されました。

立志社の趣意書では、人々が権利を守るためには「自治」が必要であることが説かれています。立志社の指導者たちは、自主自由の気風を養うことが人民の元気に、そして安定した国家の設立に繋がると考えていたのです。



このように明治七年に始まった自由民権運動ですが、その目的は一朝一夕で達成されるものではありませんでした。民権家の戦いは長く続くこととなります。本年は民権一五〇年の幕開け、といえるでしょう。

（参考文献）

- ・外崎光広「土佐自由民権運動史」
- ・一九九二年、高知市文化振興事業団
- ・松沢裕作「自由民権運動（メモクラーシ）の夢と挫折」
- ・二〇一六年、岩波書店。

令和6年度は「自由民権150年」

「講座 板垣退助」

会場：当館1階 民権ホール
時間：いずれも午後2時～4時

日程・テーマ	内容
第1回／6月1日(土) 「幕末の板垣退助」	盛組を率いた梶山・乾退助が幕末の風雲のなかで時勢にめざめ、中岡慎太郎との意気投合をへて土佐勤王派の指導者となり、「薩長土肥」と称されるまでの地位に土佐藩を導いた過程をたどります。
第2回／7月6日(土) 「一代華族論 —戊辰戦争から谷干城との 論争まで—」	自由と平等は、板垣退助の生涯を貫く思想でした。戊辰戦争の砲弾弾雨の中でさとした国民国家日本実現の理想は、明治になって人民平均の理、民撰議院と参政権確立、辞爵問題から一代華族論提唱へとつながっていきます。
第3回／8月3日(土) 「初期議会と自由党」	政党に対する板垣の考え方は、自由民権運動が終焉へと向かう明治20年を境に大きく変わります。議会政治下、政党が果たすべき国家・国民に対する責任と使命は何か。初期議会における板垣の政党観は現代政治にも示唆を与えます。
第4回／9月7日(土) 「隈板内閣の成立と崩壊」	自由民権期には藩閥専制政府、議会開会後は超然内閣と闘い、最終的には政党政治を実現することが板垣の目標でした。しかし、日本で最初に成立した隈板内閣は、わずか4ヶ月余りで崩壊。その成立と崩壊過程をたどります。
第5回／10月5日(土) 「板垣退助の 社会改良・社会政策」	日清・日露戦争を経て日本資本主義が成立し、貧富の差など社会矛盾が激化しました。政界引退後の板垣は、83年の生涯を終えるまで、後半生を社会改良運動に捧げました。弱者救済、社会的平等実現に力を尽くした晩年の板垣の生き様とは？

自由民権運動の研究者であり、昨年高知県文化賞を受賞した公文豪氏が講師に迎え、六月から一〇月まで、連続講座を開催いたします。
本講座では、公文氏が単独で編集された『板垣退助伝記資料集』を基に、新たに掘り起こされた板垣に関する資料や情報を紹介しつつ、板垣の人生を概観します。

自由民権一五〇年記念連続講座 「講座 板垣退助」



講座はZoomで同時配信します。遠方の方もぜひ御参加ください。
Zoomでの参加を希望される方は、左記QRコードもしくは
URL (<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/90/itagakikouza.html>)
からお申し込みください。

『板垣退助伝記資料集』

全18巻

好評
販売中!



板垣退助に関する文献を時系列に
まとめた資料集です。

1～6巻 幕末編～明治20年
7～12巻 明治21年～明治30年
13～18巻 明治31年～大正篇

6巻1セット／各18,000円(税込)

※全セット購入者には「板垣退助年譜・補遺」を
お付けします。

【購入・お問合せ】

高知市立自由民権記念館(088-831-3336)

全国自由民権研究顕彰連絡協
議会(全国みんけん連)は、自由
民権運動について全国各地で研
究学習などに励む多くの人々と
団体・機関が立場を超えて交流
し、情報を交換して、研究と顕彰
の進展を図ることを目標に活動
している研究団体です。
同会は、令和元年の結成以降、
年に一度総会及び大会を開催
し、全国の関係者らが一同に会す
る場を設けています。これまでは
東京で開催されていますが、今
年は立志社創立一五〇年という
節目の年となりますので、同会
を招致し、高知で大会を開催で
きるよう準備を進めています。
全国みんけん連の大会は、基
調講演や研究報告だけでなく、



*全国みんけん連ホームページ
(<https://minkenren.amebaownd.com/>)

各地の活動報告など、全国各地の
研究・顕彰活動について知ること
ができる貴重な集いの場となっ
ています。同会の会員でない方も
参加できます。これを機会に、高
知のみならずもぜひ御参加くだ
さい。お待ちしております。
なお、第五回大会は、一〇月開
催を予定しています。参加には事
前申込が必要です。開催日時等
詳細が決まりましたら、当館ホー
ムページ及び全国みんけん連
ホームページに掲載いたします。

全国みんけん連第五回大会(高知大会)

期間 令和6年1月20日(土)～2月25日(日)

共催 高知市教育研究会社会科部会



社会科作品展



表彰式の様子

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で「四回目」となります。今回も「歴史・人物」「地理・文化」など全六分野に数々の力作が出品されました。

応募点数は、小学校二九校、義務教育学校一校、中学校二校から、合計一四六点。見ごたえのある作品が集まりました。その中から一〇点を自由民権記念館特別賞に選出しました。

一月二七日(土)には表彰式を開催し、自由民権記念館特別賞受賞者やその家族の方に参加いただきました。

なお、展示期間中は約一、〇〇〇名の方に観覧いただきました。どうもありがとうございます。

来場者アンケートより

みんなそれぞれ興味を持ったことなどを詳しく調べ、調査しているのが見れてすばらしいです。(小学生)

自由な発想で、これまでにない研究テーマも見られ、大人も新しい発見ができました。

熱意を持って取り組んでいるのが伝わりました。

すばらしい作品が多くてとても分かりやすかったです。(小学生)



24回 社会科自由研究作品展特別賞表彰式

記念撮影

自由民権記念館特別賞 10作品

受賞名(分野)	学校	学年	氏名	作品名
環境	横内小学校	4	西森 史菜	海のゴミをへらそう
産業・交通A	潮江東小学校	4	久武 映祐	勝秀かじ屋のひみつ
産業・交通B	附属小学校	6	新井 結子	食品サンプルについて
総合・体験A	初月小学校	4	田中 咲羽	土佐の魅力あふれる伝統工芸
総合・体験B	昭和小学校	6	村井 凛花	長崎平和公園・爆心地公園
地域・福祉	潮江小学校	4	正岡 陽翔	みその役わり
地理・文化A	高知小学校	4	西野 詢二	高知のみ力発見!ぼくのおしは宿毛の直七～直七のすこさを調べよう～
地理・文化B	大津小学校	5	山中 淳矢	ウクライナと世界の国々について
歴史・人物A	附属小学校	2	弘末 維斗	銅像を調べたぞう
歴史・人物B	横浜新町小学校	5	北岡 琢功実	高知城と掛川城は兄弟だった?

活動レポート

出前授業に 行ってきました!

—高知市立五台山小学校—

自由民権記念館では、館をひろく様々な方に活用していただくことを目的に、出前講座、館内での展示解説、各種講座等を行っています。こうした活動の一環で、令和五年一月、高知市立五台山小学校へ出前授業に行ってきました!

教室に伺うと、冬休みを目前に控えた子どもたちは、寒さに負けず元気いっぱいようです。授業が始まる前から、初対面の学芸員にたくさん話しかけてくれました。

内容は、昨年度に引き続き、五台山出身の政治家である濱口雄幸について紹介してほしい、との御依頼でした。授業は一時間まるごと任せていただけなので、簡単なクイズを軸に、濱口の生涯をたどることにしました。真面目で頑固な性格、仕事上での困難、総理大臣としての苦悩……様々な側面から濱口の人柄や業績を紹介し、実際に濱口の演説を録音した音声も聞いてもらいました。また、授業の冒頭、子どもたちに

「濱口雄幸は〇〇な人だった、というキャッチフレーズをつけてもらおうので、考えながら聞いてくださいな」と伝えていたところ、授業後すぐに「〇〇」に入る言葉をたくさん考えてくれました。濱口について、子どもたちの心に何か一つでも残ってくれていたら嬉しいです。



授業の様子



授業で使ったスライド(一部)

取材に 協力しました!

—高知学芸高等学校—

令和五年一月、高知学芸高校放送部顧問の先生から、放送部のコンテストに応募するため、植木枝盛についての動画を作成するにあたり取材の依頼をいただきました。きっかけは、放送部員の生徒さんが自由民権運動や政治に興味があるからとの

ことで、ありがたくお受けしました。取材では、植木の青年期、特に一八歳前後にどのような生活をしていったのか、当時すでに民権運動には興味があったのか、といった御質問があり、植木の日記や自伝の記述を参考に御紹介しました。なお、植木が民権議院設立の必要性を自覚したのは一七歳の頃。立志社初の大規模な演説会で板垣の演説を傍聴し「頗る慷慨心を惹起して」、政治書を熱心に読むようになった、と自伝に記しています。

なお、今回の映像は部員のみさんのナレーションと編集で素敵な作品に仕上げられ、第三二回高知県高等学校秋季放送コンテスト(ビデオメッセージ部門)で四位入賞という嬉しい御報告をいただきました!心よりお喜び申し上げます。



取材の様子



受賞を喜ぶ部員のみなさん

インターンシップに 来てくれました!

—高知県立伊野商業高等学校—



インターンシップの様子

令和六年一月三〇日から二月二日まで、高知県立伊野商業高等学校の生徒さんが当館へインターンシップに来てくれました。

館の受付やイベント準備、展示解説の補助だけでなく、資料を保存する箱を作ったり、資料目録のデータを作成したりと、博物館のウラ側の仕事まで様々体験してもらいました。

今回の生徒さんは、高知城ガイドの経験から板垣退助に興味を持ち、当館を選んでくださったとのこと。学芸業務にも興味津々で、明るく積極的に取り組む姿が印象的でした。今回学んだことや感じたことを、今後のキャリアに活かしていただけたら幸いです。

行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。



開催中～5月26日(日)

■企画展

「田村利親と土佐の柑橘 ～未完の大著『日本柑橘全誌』の世界～」

会場：2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

開催中

■コーナー展示

「憲法発布と錦絵」

憲法発布の式典や祝賀の様子を描いた錦絵を展示しています。

常設展示とあわせて御覧ください。

会場：2階常設展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

申込
不要

4月29日(月・祝) 15:00～17:00

◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会

「『立志社始末紀要』を読む」

講師：筒井秀一(高知市立自由民権記念館長)

会場：1階研修室

※総会 13:30～15:00

5月18日(土) 14:00～15:30

■企画展

「田村利親と土佐の柑橘～未完の大著『日本柑橘全誌』の世界～」 記念講演会

高知近代史研究会総会・第117回研究会

「忘れられた柑橘研究家 田村利親の生涯」

講師：中村茂生氏(特定非営利活動法人地域文化計画 理事)

会場：1階研修室

※総会 13:30～13:50

6月～10月(第一土曜) 14:00～16:00

自由民権150年記念連続講座

「講座 板垣退助」

第1回(6月1日)

「幕末の板垣退助」

第2回(7月6日)

「一代華族論－戊辰戦争から谷干城との論争まで－」

第3回(8月3日)

「初期議会と自由党」

第4回(9月7日)

「隈板内閣の成立と崩壊」

第5回(10月5日)

「板垣退助の社会改良・社会政策」

講師：公文 豪氏(自由民権運動研究者)

会場：1階民権ホール

7月下旬 10:00～12:00

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦

※学校を通じて申込受付

8月31日(土) 14:00～15:30

■高知近代史研究会第118回研究会

「土佐の民権、米国の革命(仮)」

講師：白岩英樹氏(高知県立大学准教授)

会場：1階民権ホール

令和6年4月1日からの 指定管理者について

当館は、平成22年4月から施設管理業務に指定管理者制度を導入しています。令和6年3月31日に第4期の指定期間が終了することから、昨年、次期指定管理者を募集。審査の結果、4月1日から新たにシダックス大新東ヒューマンサービス(株)が指定管理者となります。

指定管理者は施設・設備の使用許可や維持管理に関する業務のほか、自主事業としてのイベント等の実施など、自由民権記念館を盛り立てていくパートナーとなりますので、よろしくお願ひいたします。

なお、学芸企画業務はこれまで同様に高知市が直営で行います。

ごあいさつ

この度、自由民権記念館の指定管理者にご指定いただきました、「シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社」です。

弊社グループでは「すべては未来の子どもたちのために」を基本理念に持ち、その仕事は社会を良くするのか、未来の子どもたちのためになるのかを社会の行動規範とし業務推進に取り組んでおります。

自由民権記念館の運営においては、「自由は土佐の山間より」といわれるように、高知は自由民権運動発祥の地であることから、自由民権の思想を次世代に継承させていくことが重要であると認識しております。文化・教育の発展及び豊かな地域社会の形成に寄与する場所という位置づけを確立し、円滑な管理運営を目指してまいりますので、今後も変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。